

授業科目(ナンバリング)	介護総合演習Ⅲ(介)(DB412)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習は、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習Ⅲに向けて、実習への導入を円滑にするとともに、実習の教育効果を上げていくものである。介護実習は、今まで学んだ知識・技術を統合し、実習後は実習を振り返り、自己の課題明確化を図り、次の段階へつなげていくものである。これにより、介護を必要とする利用者に対する基本的な介護を提供できる資質・能力を身につけることも併せてねらいとする。本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。							④⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の課題解決のために、介護福祉士として何が必要か、具体的な支援方法等で説明できる。 介護について、専門的な知識と技術から客観的な説明ができる。 最終実習で何が必要か思考した上で説明できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 介護実習報告書 実習事前学修 	40% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への介護計画を作成し、計画に基づいた介護計画ができたか否か指摘できる。 				介護実習報告書	20%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学んだ知識・技術を活用し、実習目標として表現できる。 				個人票	10%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に対し、介護計画の説明を行い了解を得ることを職員と協調してできる。 				介護実習報告会	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 実習事前学修：実習前に介護実習室で生活支援技術を中心とした支援技術の確認実施や、これまでに介護実習に関連する科目で学んだことについての復習状況を確認することを中心に評価する。 実習学生個人票作成については、長崎国際大学介護福祉実習要綱などを活用した内容になっているか、自分自身が介護実習Ⅲで実施したいことが明確に表現できているか、介護実習Ⅲの担当教員からの指導などを受けながら作成ができたかどうかで評価する。 介護実習報告書については、介護実習Ⅲと並行して作成に着手できていたかどうか、期日までに整理し提出ができたかどうか、フィードバックした事柄を反映させ修正、完成することができたかどうかで評価する。また、報告書指導の度に提出した報告書を返却し、修正したものを提出することを繰り返しながら完成させる。 介護実習報告会：発表の内容と発表姿勢、プレゼンテーションにて評価する。 							
授業の概要							
<p>本演習は、介護実習Ⅲ、介護過程Ⅲと関連付けながら実施し、実習指導としても進めていく。介護実習Ⅲとの組み合わせのため、帰校日(原則週1回)に合わせたものになる予定である。</p> <p>介護実習のまとめとして、実習終了後には、事例報告会を開催する予定である。</p> <p>実習におけるさらなる知識や技術、特に介護過程の展開能力等については、帰校日での取り組み状況の報告や確認、実習終了後の報告書作成等、適宜ディスカッションも行いながら、総合的な学習を行っていく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社</p> <p>参考書：長崎国際大学介護実習要綱</p> <p>指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は介護実習Ⅲに臨む事前学習の場であるということ意識し、これまで学んできた知識や技術が実習で最大限に発揮できるように努力をしてください。そのためには、これまで学んできた事柄を自主的に積極的に復習し臨んでください。同時に、自己覚知を行うということについても再考することを希望します。また、介護実習Ⅲとの関連が深い科目でもありますので、介護実習Ⅲ担当教員（石橋先生・柳詰先生）からの随時指導を受けながら、実りあるものになるよう願っています。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	知識と技術の統合① 介護実習Ⅲに関するオリエンテーション	介護実習の意義・方法・目的を理解し、介護実習Ⅲの内容を把握していく。 実習関係書類・記録方法等を確認する。	予習：①介護総合演習Ⅰ・Ⅱで配布されている、『長崎国際大学介護福祉実習要綱』を確認しておく ②介護実習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ実習記録の見直しをしておく
2・3	知識と技術の統合②③ 介護実践の科学的探究①② 実習前の取り組み	これまでの学内での学びや実習を通しての学びの統合状況を確認する。 実習Ⅱ必要な知識・技術を確認する。 介護実習Ⅲのイメージを構築する。 実習目標・課題の設定を行い、実習計画を作成する。 実習学生個人票を作成する。	予習：①介護過程の復習 ②学んだことをまとめ、方法や留意点を確認する 復習：演習で確認したことを活かし、実習学生個人票を作成し、指導を受ける
4・5	実習直前の確認	施設事前オリエンテーション訪問のための確認(担当利用者決めや夜間勤務等に関する確認事項の把握)を行う。 実習に臨むにあたっての確認(健康状態、取り組み事項等)を行う。	予習：実習配属先に事前訪問のためのアポイントメントをとり、訪問日時を決定する 復習：①交通手段等を確認する ②(事前訪問後)実習計画を修正する
6～12	知識と技術の統合④～⑩ 介護実践の科学的探究③～⑨ 実習指導(介護過程の取り組み状況を中心に)	実習の流れや取り組み状況報告や意見交換を行う。 実習全般の指導を受ける(必要に応じて個別指導も実施する)。 介護過程への取り組み状況を確認する ① 課題分析について ② 介護計画の立案について ③ 実施状況確認・評価(変更・修正も含む)について	予習：実習の流れや取り組み状況について報告ができるよう、整理をしておく 復習：翌日からの実習を円滑に進めるために、利用者の課題や根拠に関する学習をする
13	知識と技術の統合⑪ 実習後報告会(スーパービジョン)	実習後の振り返り、実習での学びの確認(実習の感想・反省の発表を行う)を行う。 実習に関する自己評価を行う 新たな目標や課題について検討する	予習：「介護のまとめ」を作成しておく 復習：今後の自身の課題を明確化しておく
14	知識と技術の統合⑫ 介護実践の科学的探究⑩ 介護実習報告会の準備	介護実習の実習報告書として、事例報告書を完成させる(介護実習Ⅲの実習中に予め大枠をまとめ、整理しておく)。 介護実習報告会での役割分担や報告会準備を行う。	①介護実習報告書を作成する ②介護実習報告会要旨を作成する ③要旨集を印刷する
15	知識と技術の統合⑬ 介護実践の科学的探究⑪ 介護実習報告会の開催	介護実習報告会当日の役割に組みながら、事例発表を行う。	復習：実習指導者や実習報告会参加者からの意見等をまとめる